

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和6年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
2024-3	観測データとシミュレーションの融合による 自動車 OD 交通量パターン再現技術に関する 研究開発	早稲田大学 教授 佐々木 邦明	B
<研究の概要> 本研究の目的は、ETC2.0 や携帯電話基地局情報、GPS に基づく移動体情報などを移動・活動シミュレーション上で統合的に扱い、道路の動的なOD 交通量推計やその近未来予測、さらには道路利用の転換効果についての定量的検討を可能とするプラットフォームを開発することである。そのために、データ同化可能な交通流シミュレータの開発、携帯電話ベースのOD推計、センサスODの動的補正等に具体的に取り組む。 <中間評価結果> - 研究計画全体の枠組みは明確であり、計画どおり研究が進捗することを期待する。 1年目の研究成果を踏まえて2年目以降の具体的な研究目標を明確化して取り組むこと、研究成果の活用可能性を念頭に研究を進めることが必要である。よって、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。 <今後の研究計画・方法への指摘事項等> 1年目の研究成果に応じて2年目以降の研究計画のブラッシュアップを行い、具体的な研究目標を明確化して計画的に取り組んでいただきたい。 - 得られる動的 OD データについて、活用可能性、活用方法を念頭に研究を進められたい。 - 研究成果の精度の目標数値等について、念頭に置いて研究を進められたい。 - ミクロレベルとマクロレベルの接続部分の検討も適切に実施されたい。 1年目の研究では、研究テーマ毎に検討対象エリアが異なっている。次年度以降、研究遂行上より望ましい検討対象エリアの設定について検討されたい。 - アルゴリズム開発後には、実データを用いた検証結果と併せて実データの特徴を踏まえて手法の改良に取り組まれたい。 - 学会等で有用性について有識者の判断、助言を得て、成果の向上を目指していただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第53回新道路技術会議において審議したものである。